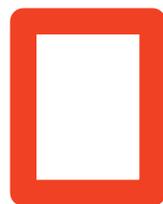


「ESD推進ネットワーク全国フォーラム2021：ESD for 2030のキック
オフ～脱炭素社会づくりに向けたESD推進ネットワークの役割～」

セッション2 パネルディスカッション

テーマ：脱炭素時代に求められるESD推進ネットワークの姿とは



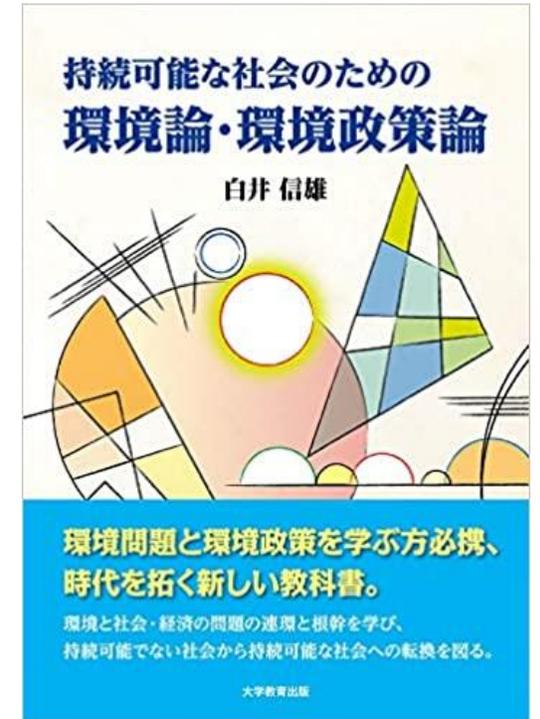
 **白井信雄**

山陽学園大学 地域マネジメント学部 教授

簡単な自己紹介

白井 信雄 (しらいのぶお)

- 所属： 三井情報開発株式会社 総合研究所 環境・資源領域リーダー
株式会社プレック研究所 持続可能環境・社会研究センター長
法政大学 サステナビリティ研究所 教授 を経て、
現在、山陽学園大学 地域マネジメント学部 教授
- 出身大学： 大阪大学 工学部 大学院 環境工学専攻、博士（工学）
- 専門領域： 環境政策、持続可能な地域づくりの理論と実践
- 研究テーマ： 気候変動の地域への影響と適応策（気候変動の地元学）
持続可能な発展としてのカーボンゼロ社会
人の成長プロセスと環境学習（転換学習）
SDGsを活かす地域づくり・コーディネイター
大規模災害と意識・行動・社会の変容 等



日本環境教育学会 「気候変動教育」研究会代表

①これまでの持続可能な社会の担い手づくり

気候変動の地元学

地域住民等が、地域における気候変動の影響事例を調べ、それらを共有し、自分達でできる適応策を話し合うことで、気候変動問題を地域の課題、あるいは自分の課題として捉え、適応策への行動意図と適応能力の形成を図り、適切な適応策の実施につなげる環境学習及び計画の手法



さらに
緩和策
にも拡張



「気候変動の地元学」の実践経緯

環境研究総合推進費

- 長野県飯田市における公民館・NPOでの「気候変動の飯田学」の実施可能性の検討、NPOを中心とした試行（2014年度、4回）
- 各地域での地球温暖化防止活動推進員、行政庁内職員向けの研修（気候変動への適応策を中心に、愛知県・鳥取県・宮崎県・沖縄県等10地域程度、2015～2017年度）各1～2回）
- 神奈川県相模原市藤野地区のまちづくりNPOと連携した「気候変動の藤野学」の実施（2016年度、3回＋シンポジウム）
- 長野県高森町の農家と地域資源である市田柿の気候変動適応計画の共創（2015～2017年度）
- 岡山市内公民館への呼びかけ、岡山市立富山公民館のESDの一環としての気候変動をテーマにした未来塾（2020年度）
- 岡山市に提案し、岡山市の気候変動対策を担うフロントランナーの育成（岡山市の予算：「気候変動のおかやま学」実践塾（2021年度）

適応

SI-CAT

適応
＋
緩和

*参加者はリーダー層が中心、2020年には岡山県北の高校生による影響事例集めを実施 地域での施策・活動

② これからの持続可能な社会の担い手づくり

目指すべきカーボンゼロ社会（持続可能な社会）の共有

	根本対策		技術対策	
	価値観や生活様式転換	社会や地域の構造の転換	エネルギー効率の向上	炭素密度の改善
民生（家庭）	<ul style="list-style-type: none"> ● 自然に即した暮らし 	<ul style="list-style-type: none"> ● 住宅の共有（シェアハウス、長屋） ● 多世代同居 	<ul style="list-style-type: none"> ● 省エネ家電 ● 断熱住宅 ● エネルギー管理 	<ul style="list-style-type: none"> ● 再エネ設備の設置 ● 再エネ電気の購入
民生（業務）	<ul style="list-style-type: none"> ● あくせくしない、ゆったりとした働き方 	<ul style="list-style-type: none"> ● オフィスを持たない会社 	<ul style="list-style-type: none"> ● 再エネ設備 ● 断熱ビル ● エネルギー管理 	<ul style="list-style-type: none"> ● 再エネ設備の設置 ● 再エネ電気の購入
運輸（旅客）	<ul style="list-style-type: none"> ● 移動をしない仕事の仕方 	<ul style="list-style-type: none"> ● 職住近接（街中居住） ● 在宅勤務 	<ul style="list-style-type: none"> ● バスや鉄道等の公共交通の利用 ● 徒歩や自転車での移動 	<ul style="list-style-type: none"> ● 電気自動車、電気バス等&再エネ電気の利用
運輸（貨物）	<ul style="list-style-type: none"> ● 自給自足 ● 足るを楽しむ消費 	<ul style="list-style-type: none"> ● 地産地消 	<ul style="list-style-type: none"> ● 鉄道等の公共交通での貨物輸送 ● 物流の効率管理 	<ul style="list-style-type: none"> ● 電気トラック&再エネ電気の利用
産業	<ul style="list-style-type: none"> ● 少量適量生産 ● 規模拡大を目指さない企業経営 	<ul style="list-style-type: none"> ● モノではなくサービスを売るビジネス ● リユース形成 	<ul style="list-style-type: none"> ● 生産設備の省エネ 	<ul style="list-style-type: none"> ● 再エネでの生産

地域主導による社会と人の根本転換（トランジション）に向けた担い手の必要

百人の一步から、五人の先駆けへ！

例：カーボンゼロ社会に向けて必要な担い手

気候変動マネージャー、気候変動教育コーディネイター、
緩和と適応の実践フロンランナー、普及啓発指導者・教育者、
変わろうとする生活者・消費者・生産者

実践と通じた（外的拡張と内的深化を両立させる）深い学びのプログラム

順応型知性、自己主導型知性から、自己転換型知性の発達へ！

例：問いかけと傾聴を重視する（哲学）対話を通じた相互理解、
自己省察、関係形成、共創

③これから求められるネットワークの姿

カーボンゼロを考える際の論点（例）

- ① 量的成長を求めず、**質的に成長する社会**を求めるとしたら、どのような姿を目指しますか？
- ② **人の移動量を減らし、公共交通の利用を増やす、コンパクトシティ**として、どのような姿を目指しますか？
- ③ **経済圏のコンパクト化、すなわち地産地消を中心とした社会**として、どのような姿を目指しますか？
- ④ **社会経済的弱者が取り残されない**カーボンゼロ社会として、どのような姿を目指しますか？
- ⑤ **再生可能エネルギーによる自給、地域内、地域外からの調達**について、どのような姿を目指しますか？
- ⑥ **脱物質化、脱プラスチック、植物（バイオマス）**を基軸とした社会として、どのような姿を目指しますか？

2050年の理想
に関する対話
の場づくり
(公共圏)



理想に向けた
各主体の変革
とそれを支え
合う連携

持続可能な発展の規範を満たすカーボンゼロ社会の方向性

持続可能な発展の規範		カーボンゼロ社会の方向性（例）
社会・経済の活力	社会活動の活発化	・ 再生可能エネルギーの導入等脱温暖化活動を通じたコミュニティの活性化
	経済成長と産業振興	・ 脱温暖化技術の開発と海外移転による経済活性化 ・ 脱温暖化による経費削減・再投資による経済効果
	一人ひとりの成長	・ エネルギー多消費型の暮らしからの脱却 ・ 足るを知る生き方の模索、自己の内省
環境・資源への配慮	人類の生存環境の維持	・ 大気中の温室効果ガスの濃度を自然生態系や人類に影響を及ぼさない水準で安定化
	生物の権利への配慮	・ 気候変動の安定化による生物多様性の維持
	資源・エネルギー制約対応	・ 温室効果ガスの排出抑制による資源・エネルギーの残存
公正への配慮	公正な参加機会の提供	・ あらゆる主体における再生可能エネルギーやゼロエミッション住宅等の導入支援
	社会経済弱者への配慮	・ HEMSによる高齢者等弱者の支援サービスの提供 ・ 市街地コンパクト化による弱者の暮らしやすさ向上
	地域間、国際間の格差是正	・ 地域資源を活かした脱温暖化対策による地域活性化 ・ 森林管理や木質バイオマス利用等による山村再生
リスクへの備え	防御と影響最小化	・ ゼロエミッション建築（住宅）による非常時の電源・熱源の確保
	感受性の改善	・ 大都市圏から地方圏への人口移動による大都市圏の大規模災害リスクの軽減
	回復力の確保	・ 脱温暖化対策を通じて形成されたコミュニティを活かした復興

持続可能な発展の規範を満たす気候変動適応社会の方向性

持続可能な発展の規範		気候変動適応社会の方向性（例）
社会・経済の活力	社会活動の活発化	<ul style="list-style-type: none"> ・自主防災等を通じた地域コミュニティの形成 ・非常時に地域間で支え合うネットワーク
	経済成長と産業振興	<ul style="list-style-type: none"> ・適応策を通じた地域の土地や特産品等の価値の向上 ・適応策による特産品の競争力向上
	一人ひとりの成長	<ul style="list-style-type: none"> ・自然を遠ざけるのではなく、自然とのつきあい方を知り、自然の力を受け入れる人としての成長
環境・資源への配慮	人類の生存環境の維持	<ul style="list-style-type: none"> ・生活の基盤となる公共施設（道路・鉄道、病院、学校等）における災害時の機能維持のための備え
	生物の権利への配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・気候変動の生物への影響に対する対策（生物の避難経路を確保する回廊の形成等）
	資源・エネルギー制約対応	<ul style="list-style-type: none"> ・非常時に利用できる再生可能エネルギー設備の日常利用
公正への配慮	公正な参加機会の提供	<ul style="list-style-type: none"> ・あらゆる主体における気候変動の影響と適応策に関するリテラシー向上と関連情報へのアクセス確保
	社会経済弱者への配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・気候変動の影響を受けやすい身体的・精神的、社会経済的な弱者における水災害や熱中症対策
	地域間、国際間の格差是正	<ul style="list-style-type: none"> ・人口減少、高齢化等により、十分な災害対策が進まない地域の支援
リスクへの備え	防御と影響最小化	<ul style="list-style-type: none"> ・水災害から生命や財産を守るための治水や防災対策の徹底、避難先となる経路や場所の確保
	感受性の改善	<ul style="list-style-type: none"> ・災害を受けやすい場所からの撤退、移転、移動 ・地域コミュニティの確保、森林や緑地の整備等
	回復力の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・気候災害に備える資源（人、モノ、情報）の確保 ・気候災害に備える訓練や復興の事前想定